

# 何気ない「日常」を読み解く — 民俗学の視点から —

「今になってみると、何気ない毎日こそが、実は幸せだった、としみじみ分かる」

これは、熊本地震で被災された方の言葉である。なれない避難所での暮らし、

はじめて日常のなにもないことが幸福だったと実感できたということがある。

私たちはそれほど幸せのなかにいながら、それを知ることなく暮らしているということでもある。

日本民俗学という学問がある。

何気ない日常のなかの疑問を感じ取り様々な課題を見つけて、

最終的には、世の中を修めて人々を救う「経世済民」に至ることを目的とするものである。

日本民俗学という鏡を使って曼荼羅のような日常を読み解いてみたい。



講演者

ふくま ゆうじ  
**福間 裕爾氏**  
福岡市博物館 学芸課長

◆趣旨説明 13時00分～

田村 和彦氏

福岡大学人文学部教授、福岡・東アジア・地域共生研究所

◆講演 13時05分～

◆質疑応答 14時05分～14時20分

2016年7月13日(水)

13時00分～14時20分(開場12時30分)

会場

福岡大学 中央図書館1階

多目的ホール

(福岡市城南区七隈八丁目19-1)

※福岡市地下鉄七隈線

「福大前駅」下車、徒歩5分)



参加 無料・事前申込不要

対象 テーマに関心のあるすべての方

主催 福岡大学  
福岡・東アジア・地域共生研究所



お問合せ先

福岡大学 福岡・東アジア・地域共生研究所 (担当:山田)

TEL.092-871-6631(代) 内線4046 ※平日10時00分～16時50分

Eメール yuzo@adm.fukuoka-u.ac.jp